



京都 YWCA

5 2012

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

● 福島からの子どもたちを迎えて ●

「春休み! 京都にあそびにおいで♪ ～春休みリフレッシュプログラム!～」報告

今年の春(3月26日～4月1日)も、福島県の子どもたち15名と大人1名が京都YWCAにやってきました。今回は、日本とフィリピン両方のルーツを持つ子どもたちを中心に募集し、7名の子どもたちが参加してくれました。福島駅で出会った時にはぎこちなかった子どもたちの顔も、京都に着いておいしいご飯を食べ、銭湯からあがりフルーツ牛乳を飲む頃にはほこほことゆるんでいました。

今回の中心は、京都YMCAの宇治リトリートセンターでのお泊まりプログラムでした。京都YMCAのご厚意で貸し切りとなったキャンプ場では、大学生のリーダーたちが2ヶ月前から準備してくれたプログラムが待ち受けていました。スタンプラリーにゲーム大会、バームクーヘン作りに缶蹴りアイス。手作り工作に薪割りや火おこし。自分たちで作るピザやカレー。「ボランティアは初めて」という大学生リーダーたちの心配をよそに、子どもたちは全てのプログラムを堪能してくれました。

● フィリピン文化に触れた楽しいキャンプ

2日目の夕食は、フィリピンナイトでした。現在京都YWCAの外国人支援グループAPTで活動しているフィリピン出身のメンバーが腕をふるって「アドボ」を作ってくれました。また、食事の前にAPTの紹介と彼女の話を聞く時間を設けました。彼女は、子どもたちに向かって「フィリピン人と日本人のダブルとしての誇りをもって、自分らしく生きて欲しい」と短いけれど心に響くメッセージをくれました。そのおかげか、キャンプ最終日の子どもたちによるプレゼンテーション大会では、福島や京都の特色だけではなく、フィリピンについても発表がありました。そのチームのみんなで、フィリピンのことも報告しよう!と話して決めたのだそうです。

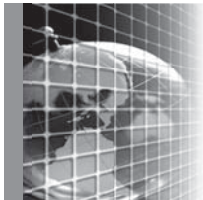
最終日の一日観光では、着物を着たり、琵琶湖に入って遊んだり、すっかり仲良くなった京都キッズと福島キッズでプリクラを撮ったりと、最後まで元気いっぱいの子どもたちでした。

食事作りや子どもたちの健康管理、差し入れや気遣いをしてくれた方、「絵かるた」プログラムを提供して下さった京都YWCA親子ライブラリーの皆さん、送迎や1日観光に同行下さった方、寄附を頂いた方、多くの方が子どもたちの京都滞在を支えて下さったこと、本当に感謝いたします。

「夏も絶対くるからねー」と言いながら手を振り、親御さんに一生懸命話しながら帰って行く子どもたちの姿が何よりの評価かもしれません。子どもたちを通じて福島を感じ、子どもたちの将来を福島のご家族と一緒に案じ、いつでも戻っておいで、京都で待っているから、と言えるような、京都YWCAがそんな存在になれたらいいなと帰りの新幹線で思いました。

(吉村千恵)





2012 年度の私たちの活動

～痛みと畏れとを胸に～

2012 年度ミッション推進活動部門 運営委員会 会長 弘中奈都子

今年度は、京都での「春のリフレッシュプログラム」に参加した福島の小学生・中学生 15 名を故郷へ送り届けることから始まりました。

東日本大震災から 1 年以上経過しても、未だ福島第 1 原発事故の収束は見えません。地震・津波被害だけでも甚大です。放射能に対しては、例を見ず深刻です。そもそも、「収束」というものがあるのかどうか知り得ないものとも言えます。各地で地震が頻発し、同様のことが起きる可能性も否定できません。

さて今年度は、「被災者支援委員会」をたち上げ、息長い活動を続けていきます。現在準備中のものとして①京都に福島の子どもの被曝軽減のために受け入れるプログラム、②日本 YWCA のセカンドハウスプログラム、③日頃の活動の中から子ども向けプログラムを準備して新地町の仮設住宅を訪問する、④京都に避難して来られている方々とのつながりを継続する、⑤ボランティアの養成、などが考えられています。

他には今年度から「親・子育て支援活動委員会」が「子どもの教育を考える委員会」と子育て支援事業「ここから」を包括・再編成され活動をしています。若い世代のメンバーの活動は「次世代プログラム委員会」として動いています。

いろいろな世代が交流し合うことがまさに YWCA の持ち味です。

また、私たちの活動の場である会館の将来の検討が続けられている「中長期ビジョン・プロジェクト」の中でふれあいの居場所づくりの検討を行います。また、「カフェ事業」も委員会として活動を継続していきます。

活動の 3 ヶ年（2010 年—2012 年）の基本方針を今一度確認したいと思います。

- 平和な社会をつくる活動に取り組む
- 女性・子どもの人権を守り、豊かに生きる環境をめざす
- 異なる文化や背景を持つ人々とともに「多様性を尊重する社会」をめざす
- 地球環境の持続性に配慮して活動する

来年（2013 年）京都 YWCA は、設立 90 周年を迎えます。各委員会ははじめ会員一人ひとりの持ち味を生かしながら日々の活動を展開・継続していきましょう。



法人移行報告

京都 YWCA では、2008 年 12 月施行の民法改正を見据えて、2007 年に「寄付行為改定」を行い、2010 年 3 月に一般財団法人へ移行することを決め、移行申請作業を行ってきました。2011 年 1 月に京都府に移行申請を行い、昨年 10 月に京都府の「認定委員会」の答申を受け、2012 年 3 月に「移行認定」を受けました。そして 2012 年 4 月 1 日に一般財団法人への移行登記を行いました。

新しい法律では、主務官庁制度がなくなり、法人運営を自主自律的に運営していくことになります。京都 YWCA がこれまで以上に、YWCAらしい事業展開と法人運営を行いつつ、機が熟したときに「公益認定」へのステップアップを図りたいと思います。

★ 2012 年 4 月

「一般財団法人 京都 YWCA」の役員

* 評議員（7 名）：

今井貴美江、鍛冶富美子、神門佐千子、下村泰子、弘中奈都子、福嶋由里子、吉田紀子

* 理事（5 名）：

安藤いづみ、上村愈巳子、坪野えり子、平野富希、山本知恵

（総幹事 山本知恵）

ありがとう ポールさん、 こんにちは マギーさん



ポールさんは 4 月から
お母さん英語・未就園
児英語を担当されます。



ご両親や親戚も教員、と
教員一家のマギーさん

京都 YWCA の英会話クラスを 6 年間担当いただいたポール・クラウスさんが 2012 年 3 月で専任講師を退職されました。4 月からはマギー・フラッシュさんが担当されます。

マギーさんはアメリカのノースカロライナ州の出身で公立高校の教員として理科を 7 年間教えておられました。1994 年に京都の友人を訪ねるために初来日。なんとそれまでは日本語をまったく勉強されていなかったのですが、そのまま 3 年間滞在することに。大学院での勉強のためにノースカロライナ州に戻られた時期もありましたが、2000 年から本格的に京都にお住まいです。

「『教える』と『学ぶ』はチームワークです。お互いに発信しあって双方向のやり取りを楽しみましょう！」とメッセージをいただきました！

》》》》》》》》》》》 シリーズ 福島から京都に避難して ① 》》》》》》》》》》》

今号より、福島から京都に避難され、避難者の会を立ち上げられた西山祐子さんからのメッセージをお届けします。

真の「被災地支援」について

西山 祐子

京都に移住を決断

原発事故後、2011年6月19日、福島市の放射線量が通常の600倍近く高くなり、東京に一時避難していた際、京都府が自主避難者でも受け入れていることを知り、当時2歳の娘と父母と避難してきました。京都に決めた理由は、経済的な理由だけでなく、累積放射線量が少なく、西日本の安全な食材を手に入れることができるからでした。移住も視野に入れ安全な場所を決めるために、空間線量だけでなく累積放射線量も考慮すると東日本に住むのは困難だと判断し、京都に住むことを決断したのです。避難してきてから、娘と地震や放射能の不安を持たずに暮らせるようになりました。はじめは関西に移住することに抵抗を感じていた夫も家族で安心して暮らせるのであればということで、関西へ転職することを考え始めました。



瓦礫受け入れについて

家族で再出発を考えている矢先、京都府や京都市で瓦礫の受け入れを推進していることを知りました。広域処理について自ら調べ、宮城県石巻市に出向いて現状を見てきました。そこでわかったのは、瓦礫を焼却することにより放射性物質が流出する恐れがあり、焼却灰を一般の家庭ごみとともに埋めることになると、土も水も川も汚染されてしまうということ、放射能の積もった東日本で瓦礫を焼却することと、積もっていない西日本では焼却後の影響がちがうこと、広域処理することにより被災地には予算が配分されないこと、瓦礫処理よりもインフラの整備の遅れが復興の妨げになっていると被災地の人が感じていること、命の宿る瓦礫を再生し復興する案があるが受け入れられないこと等です。

現在、福島ははじめ東日本のホットスポットに住んでいる人の多くが、西日本の食材や水を取り寄せ内部被爆を避けようとしています。そのような中で、放射能の積もっていない西日本では、安全な食材や放射能から離れ体をリセットするための保養の機会を提供することや、避難や移住する人を受け入れることこそが真の被災地支援になるのではないかと思います。

それぞれが自分の目で真実を見極め、真の被災地支援を考えていただきたいと思います。

マクロビオティック料理の講師・竹内泉さんにインタビュー ～京都 YWCA「ここ」から」で活躍中～

「マクロビオティック」とは：

macro（大きな、最大の）+ bio（生命）+ tic（術、技）の造語で「天から与えられた生命を最大限に生き抜く術」というイメージ。単なる玄米菜食ではなく、明治時代の食養医・石塚左玄の思想から桜沢如一が東洋の易を取り入れ、無双原理として確立した生き方の思想。料理（食べ物）は生き方の一端で、宇宙の秩序にそって自然な生き方をしていくことが本来のマクロビオティックといえる。

「マクロビオティック料理」に関わられた動機は：

栄養士を目指し食生活には人一倍気をつけていたにも拘らず、体調不良に悩み、ホルモン治療で授かった長男は体が弱く母乳育児もままならず大変だった頃、雑穀と野菜と海藻だけで毎日いきいきされている親子に出会ったことがキッカケだった。栄養学では要といわれる食品（大豆、乳、小麦、卵など）を摂らなくても元気！という事実には驚き、それまでの栄養学の知識は捨てて、玄米菜食に挑戦し始めたら、次第に体調も良くなり、自然に授かった次男は母乳育児も楽にできた。



現在の料理教室は：

生徒さんは20代から70代、一人ひとりの思いに添った指導を心がけている。マクロの料理は、料理嫌いだった人も好きにさせるほどシンプルな料理。

今後の希望は：

この16年間、食べることは命に直結し、食育の重要性を痛感している。料理法のみならずマクロビオティック思想を伝える場としての教室を目指したい。「遠くの景色を希望を持ってながめながら足元をみつめることの大切さ」を、おいしい料理をとおして伝えることができればと思っている。

京都YWCAのサポーターになって、活動をお支えください。

2012年度がスタートしました。京都YWCAでは女性・子ども・若者・多文化共生をキーワードに本年度も事業を行います。特に以下の4つの事業について、みなさまからのご支援をよろしくお願いします。

- ①東日本大震災被災者支援事業（福島の子どものためのリフレッシュプログラム in 京都・福島新地町尚英中学校学習支援・東北から京都へ避難されている方対象のプログラム）
- ②外国人支援事業（多言語による電話相談・生活者のための日本語学習支援）
- ③子育て支援事業（親と子が共に楽しみ学ぶための講座・プログラムの実施）
- ④次世代育成（小学生向けの多文化共生・平和プログラム、大学生を含む若い世代のリーダーシップ養成）

ご寄付は京都YWCA事務所の他、以下の口座にお振込みいただくことができます。

郵便振替 記号番号 01080-9-1566 財団法人京都YWCA

また、京都YWCAの事業活動全般にわたってご協力いただく賛助員も募集しています。

賛助員になっていただくと

1. 京都YWCAのニュースレターを隔月お送りします。
2. クリスマス会にご招待の他、お誕生日カードをお送りします。

賛助員の年会費は¥5,000もしくは¥10,000です。

こちらも京都YWCA事務所で受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

今後のプログラム

2012年 あじさいバザール

6月2日(土) 10:00 - 15:00

食堂メニューも充実。みなさまのおこしをお待ちしています。
入場料は被災者支援活動への寄付とさせていただきます。
ボランティア募集中！

次世代プログラム

6月23日(土) 10:00 - 13:00

*テーマ「インドネシアの人たちと生活」
小学生対象のプログラムです。

福島キッズのための 夏のプログラム

7月23日～8月7日(予定)

*プログラムを手伝ってくれる人・子どもたちと遊んでくれる若者大募集

ご寄付ありがとうございました。

敬称略 (2012年2月1日～2012年3月31日)

*一般寄付

日本キリスト教団京都丸太町教会、日本キリスト教団膳所教会、日本キリスト教団京都教会、出店都、上村愈巳子、梅村マルティナ、山本知恵、吉田紀子、菅英三子、川端国世、板垣めぐみ、山本いつみ、花岡正義

*指定寄付

東北地方太平洋沖地震 被災者支援：

別所加恵、上村愈巳子、水口幼稚園保護者チャペルの会、安藤いつみ

子どもの教育を考える委員会：

平野富希、親子ライブラリー有志

APT：杉山カリサ、リンパラヤ スプラーニー、日本キリスト教団上賀茂伝道所、愛葉はるか、ニコルコマファイ、張善花、川勝麗子、安藤いつみ、吉村三和、きょうと外国人支援ネッ

トワーク、吉田紀子、岡佑里子、安藤いつみ、朱雀中学校、洛陽教会、井川和子・ジェフリー・メンセンディーク、杉 勝利 平和：円城順子、弘中奈都子、スウォンプロジェクト有志

活動G連絡会：ビーンズ

次世代育成P：ドーナツ有志

子育て支援：上田理恵子、平野富希

ピアノ募金：リズム受講生有志

ミニホール・キッチン改装募金：

住田サーラ、上田理恵子、松本弘子、宮武美知子、神門佐千子、花岡正義

賛助費：中村美智子、早川久仁子、猿山由美子、木村 穰、岡 昭男、近藤純弘、下村喜久子、玉置紀美子、伊村喜久子

*

福島からの子どもたちを迎えた「春休みリフレッシュプログラム」で井筒湯（京都市中京区）さんにご協力いただきました。ありがとうございました。

3月・4月／理事会報告

★理事会報告

○被災者支援：春の福島キッズ受け入れプログラム終了（3/26-4/1）。

2012年度「被災者支援委員会」を立ち上げ、①福島キッズの保養プログラム、

②福島県新地町の仮設訪問、③京都への避難者向けプログラム、④ボランティア養成を展開する。

○生涯教育事業部：2012年度は英会話クラスのために非常勤教師（7名）と契約。

○緊急時対応マニュアルを作成中。災害時のための備品を購入する。

KYOTO YWCA No.508

2012年5月号（5月1日発行）

発行人 上村愈巳子

発行所 一般財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通出水上ル

電話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (財)京都YWCA

定価 50円